

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	放送映画リテラシーD1(検定試験対策)	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	JPPA問題集(2019年度版)/ポストプロダクション技術マニュアル				
担当教員情報					
担当教員	笹本 崇・宮川 佳己	実務経験の有無・職種	有・映像編集業務(笹本)・制作業務(宮川)		
学習目的					
<p>毎年6月に実施される「映像音響処理技術者資格認定試験(JPPA)」へ向けての対策講座です。</p> <p>地上デジタル放送やBS放送、更にはビデオ・オン・デマンドサービスをはじめ、デジタルサイネージやライブイベント等、映像コンテンツの活用は益々その広がりを見せる中、デジタル技術の発展により増加する映像コンテンツの需要に対し、高品質で魅力あふれるコンテンツ制作を担う「映像音響処理技術者」を目指し知識と技術を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>テレビ番組・CM・動画コンテンツなどを手がける映像・音響関連業界で働く際に知っておくことで自身の成長や応用の礎となる技術知識を学ぶ。これはコンテンツ制作に際し、映像制作を目指す学生たちが共有すべき知識である。</p> <p>自分の力を十分に発揮し関連の方々とのより良いコミュニケーションがとれることで、良質なコンテンツの制作が容易になることを目指し、自分の可能性を高めこの業界で通じる技術知識を取得することを目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>受験申し込みの際に購入させた問題集を基に、過去の出題を解きながら解説を加えて進める。</p> <p>また必要に応じて教科書として購入しているポストプロダクション技術マニュアルを参考書として使用する。</p>				
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。</p> <p>理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	試験結果で評価する		
	小テスト	20%	小テストを数回実施して理解度を確認していく		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	JPPAについて	JPPA(日本ポストプロダクション協会)についての説明と試験を受ける意義について学ぶ。また試験の出題内容や傾向を理解する			
2回	過去問題(1)	技術基礎問題で出された内容を学ぶ。各問題の答えを解説して意味や内容を理解する			
3回	過去問題(2)	映像基礎問題で出された内容を学ぶ。各問題の答えを解説して意味や内容を理解する			
4回	過去問題(3)	音響基礎問題で出された内容を学ぶ。各問題の答えを解説して意味や内容を理解する			
5回	小テスト実施	技術基礎、映像基礎、音響基礎から出題をしてテストを実施。自分自身の理解度を認識させる			
6回	過去問題(4)	デジタルメディア・コンピューターで出された内容を学ぶ。各問題を解説して意味や内容を理解する			
7回	過去問題(5)	著作権基礎問題で出された内容を学ぶ。各問題の答えを解説して意味や内容を理解する			
8回	試験直前対策講座(模擬試験)	昨年度(2018年度)の過去問題を使用して模擬試験を実施。本試験に向けて対策をする			
9回	JPPA本試験の解答&解説	本試験を終えて答え合わせと各問題の解説をする。自分自身の正解率や反省点を理解させる			
10回	ドキュメンタリー番組制作	ドキュメンタリーを理解し、事実とフィクション、やらせとの境界線を理解させる			
11回	メディアリテラシーワーク	ニュース番組を分析し音声と映像で構成されていることを理解させる			
12回	ドキュメンタリー映画	実際の事件をモチーフにした作品を研究しドキュメンタリー映画を理解させる			
13回	ロングテイク映像	ロングテイク映像を使用した作品について研究し演出的、技術的な手法を理解させる			
14回	スポーツドキュメンタリー	スポーツドキュメンタリーを研究し、構成、編集を理解させる			
15回	ポストプロダクション	ポストプロダクションにおける映像編集を研究し映像は時空を超える事を理解させる			